

II-1 完全固定梁の解析及実験

信州大学工学部 正員 吉田俊彦
 ○ 建設省北陸地建 富山工務所
 準員 花市穎吾

(1) 緒論

普通単純梁及完全固定梁として取扱われるものは、便宜上一端の水平移動可能、即ち伸縮する事のない中立軸の存在を仮定している。而るに両端の水平変位が全然許されず、又はその一部が拘束される如き場合は少なくない。この場合当然軸張力が誘發される。

従つて、こゝでは完全固定梁とは上記の如きものを指し、厳密解には、この軸張力 X の考慮が必要になり、その影響は見逃し得ない場合もある。本研究では、荷重 P により誘發される軸張力 X を求めたものである。更にたわみの理論値と実測値との比較を試みた。

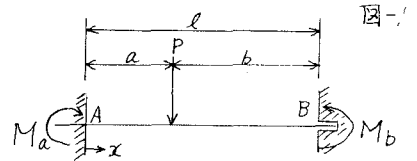
完全固定梁の解法については、鷹部屋福平博士が、中央負載荷の場合及び等分布荷重載荷の場合について、理論式を示されているが、本研究では任意負載荷の場合について理論的実験的研究をなした。

(2) 固定梁

図-1の如く一端 A は固定されて不動であるが、他端 B は不動ではなく、單にさし込んであつて荷重がはかると、水平方向に抜け出す状態である。この梁を通常両端固定梁と呼ぶ。両端には支点モーメント M_a 、 M_b 及び垂直反力 R_a 、 R_b が作用する。

図-1の場合のモーメント及びたわみを求める

$$M_a = -\frac{Pab^2}{l^2} \quad M_b = -\frac{Pa^2b}{l^2}$$



任意点の曲げモーメント M は

$$M = \frac{Pb^2}{l^3} \{x(l+2a) - la\} \quad (0 < x < a), \quad M = \frac{Pa^2}{l^3} \{-x(l+2b) + l(l+b)\} \quad (a < x < l)$$

たわみ y は

$$y = \frac{Pb^2}{6EI} \left\{ 3a \frac{x^2}{l^2} - (l+2a) \frac{x^3}{l^3} \right\} \quad (0 < x < a), \quad y = \frac{Pa^2}{6EI} \left\{ (l+2b) \frac{x^2}{l^2} - 3(l+b) \frac{x^3}{l^3} + 3x - a \right\} \quad (a < x < l)$$

(3) 単一荷重を任意点に荷せられた完全固定梁

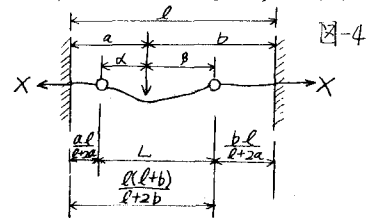
中央点に単一荷重がある場合については、既に鷹部屋博士により詳細に解かれているから、ここでは任意点に単一荷重がある場合についての解を示す。

両端埋込みであるから、負荷後、梁には変曲点を生ずるが、その位置は実測値よりも分る如く、軸張力の有無大小により余り変る事なく、荷重位置によって大体一定と考えられる。従つて、完全固定梁の解法は鉸端梁の解法に帰着する。

今水平変位可能な固定梁の変曲点の位置は、 $M=0$ より

$$0 < x < a \text{ に対して、 } x = \frac{al}{l+2a}, \quad a < x < l \text{ に対して、 } x = \frac{l(l+b)}{l+2b}$$

従つて図-4の如く鉸端梁 L を解けば良い。



任意点 \$x\$ の曲げモーメントは

$$0 < x < \alpha \quad M = \frac{\beta}{L} Px - Xy, \quad \alpha < x < L \quad M = \frac{\alpha}{L} P(L-x) - Xy$$

今未知量 \$X\$ による以外の曲げモーメント, 即ち単純梁としての曲げモーメントを \$M_0\$ とおくと

$$M = M_0 - Xy$$

ここで, \$M_0\$ を正弦フーリエ級数で表すと

$$M_0 = \sum_{n=1}^{\infty} A_n \sin \frac{n\pi}{L} x, \quad A_n = \frac{2}{L} \int_0^L M_0 \sin \frac{n\pi}{L} x dx$$

\$M_0\$ 式より \$A_n\$ を求めると

$$\begin{aligned} A_n &= \frac{2P}{L} \left\{ \int_0^{\alpha} \beta x \sin \frac{n\pi x}{L} dx + \int_{\alpha}^L \alpha(L-x) \sin \frac{n\pi x}{L} dx \right\} \\ &= \frac{2P}{L} \left\{ -\beta \left[x \frac{L}{n\pi} \cos \frac{n\pi x}{L} \right]_0^{\alpha} + \beta \int_0^{\alpha} \frac{L}{n\pi} \cos \frac{n\pi x}{L} dx - \alpha \left[(L-x) \frac{L}{n\pi} \cos \frac{n\pi x}{L} \right]_{\alpha}^L - \alpha \int_{\alpha}^L \frac{L}{n\pi} \cos \frac{n\pi x}{L} dx \right\} \\ &= \frac{2P}{L} \left\{ -\beta \frac{L}{n\pi} \cos \frac{n\pi \alpha}{L} + \frac{\beta L}{n\pi} \left[\frac{L}{n\pi} \sin \frac{n\pi x}{L} \right]_0^{\alpha} + \alpha(L-\alpha) \frac{L}{n\pi} \cos \frac{n\pi \alpha}{L} - \frac{\alpha L}{n\pi} \left[\frac{L}{n\pi} \sin \frac{n\pi x}{L} \right]_{\alpha}^L \right\} \\ &= \frac{2P}{L} \left\{ \frac{\alpha \beta L}{n\pi} \cos \frac{n\pi \alpha}{L} + \frac{\beta L^2}{n^2 \pi^2} \sin \frac{n\pi \alpha}{L} + \frac{\alpha(L-\alpha)L}{n\pi} \cos \frac{n\pi \alpha}{L} + \frac{\alpha L^2}{n^2 \pi^2} \sin \frac{n\pi \alpha}{L} \right\} \\ &= \frac{2P}{L^2} \frac{L^3}{n^2 \pi^2} \sin \frac{n\pi \alpha}{L} = \frac{2PL}{n^2 \pi^2} \sin \frac{n\pi \alpha}{L} \end{aligned}$$

故に弾性曲線の微分方程式は

$$EI \frac{d^2 y}{dx^2} - Xy + \frac{2PL}{\pi^2} \sum_{n=1}^{\infty} \frac{1}{n^2} \sin \frac{n\pi x}{L} \sin \frac{n\pi x}{L} = 0$$

求める解は

$$y = \sum_{n=1}^{\infty} \beta_n \sin \frac{n\pi x}{L}, \quad \beta_n = \frac{2PL}{n^2 \pi^2} \sin \frac{n\pi \alpha}{L} \frac{1}{\frac{\pi^2 EI}{L^2} + X}$$

であるから第一項のみをとれば

$$y = \frac{2PL}{\pi^2} \left\{ \frac{\sin \frac{\pi \alpha}{L} \sin \frac{\pi x}{L}}{\frac{\pi^2 EI}{L^2} + X} \right\}$$

ここで $\frac{\pi^2 EI}{L^2} + X = \frac{\pi^2 EI'}{L^2}$ とおき \$X\$ の影響を加味した仮想断面 = 次モーメント \$I'\$ を用いる, 即ち, $I' = I + \frac{L^2}{\pi^2} X$ とおけば

$$y = \frac{2PL}{\pi^2} \frac{\sin \frac{\pi \alpha}{L} \sin \frac{\pi x}{L}}{\frac{\pi^2 EI'}{L^2} + X} = \frac{2PL^3}{\pi^2 EI'} \sin \frac{\pi \alpha}{L} \sin \frac{\pi x}{L}$$

又単純梁の可動端の水平移動量 \$\Delta\$ は負荷後, 梁の伸長量 \$\Delta\$ に近似的に等しい事を用いて \$X\$ を求めると

$$L + \Delta L = \int_0^L \sqrt{1 + \left(\frac{dy}{dx}\right)^2} dx \quad \therefore \Delta L = \frac{1}{2} \int_0^L \left(\frac{dy}{dx}\right)^2 dx \\ \Delta L = \frac{P^2 \alpha^2 \beta^2}{90EI^2} (\alpha^3 + 5\alpha^2 \beta + 5\alpha \beta^2 + \beta^3)$$

従って鉸端固定梁の水平軸力, \$X\$ は上式に於て, \$I \rightarrow I'\$ とすれば良いから

$$X = \frac{EA}{L} \Delta L = \frac{EAP^2 \alpha^2 \beta^2}{90EI^2 (I + \frac{L^2}{\pi^2} X)^2} (\alpha^3 + 5\alpha^2 \beta + 5\alpha \beta^2 + \beta^3) = \frac{P^2 \alpha^2 \beta^2 A}{90EL^3 (I + \frac{L^2}{\pi^2} X)^2} (\alpha^3 + 5\alpha^2 \beta + 5\alpha \beta^2 + \beta^3)$$

\$X\$ を試算的に求めるために \$m\$ を求める式を誘導すると

$$\frac{4EI}{L^2} m^2 = \frac{P^2 \alpha^2 \beta^2 A}{90EL^3 I^2} \frac{\alpha^3 + 5\alpha^2 \beta + 5\alpha \beta^2 + \beta^3}{\left(1 + \frac{L^2}{\pi^2} \frac{4}{L^2} m^2\right)^2}$$

$$\therefore \frac{1}{360m^2 \left(1 + \frac{4}{\pi^2} m^2\right)^2} = \frac{E^2 I^3 L}{P^2 \alpha^2 \beta^2 A (\alpha^3 + 5\alpha^2 \beta + 5\alpha \beta^2 + \beta^3)}$$

なお実験値も, 完全固定梁については理論値とかなり良く一致した, 此の事は講演会に於て述べる予定である。